

4/20 やまなみこども園より
Facebookにて

今日は宮崎県の山まで保育者が薪
を取りに行ったり、やまなみ避難



生きぬくために、前を向くために、命あることに感謝して、この誰のせいでも無い自然の猛威を受けとめてゆこうと、自分たちにできる限りのことをしていこうと思っています。

やまなみこども園は今も「私設避難所」として地域の方々と家族のように支え合って暮らしています。

ライフラインは電気と水道は復活しているので、毎日3食の炊き出しは薪と炭を燃してこしらえています。



所で暮らす保護者の方のお仕事関係から頂いたりして、だいぶ薪のストックができました。炭は全国の保育問題研究会の仲間が支援物資として送ってくださり、本当に助かりました。

毎日の薪割りには、小中高生の出番です。みんな斧使いもだんだん上手になっていて、本当に頼りになります。高校生男子たちは男手の一員として、重い物の移動などに大活躍です。

自分が年長まで受け持った子どもが、この被災時に力仕事では自分よりもうんとたのもしく、本当に保育者冥利につきます。

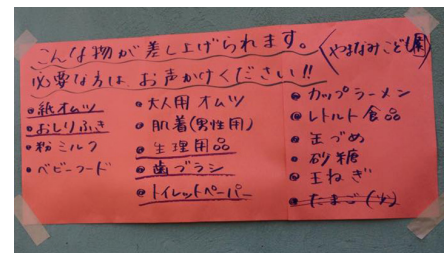
子どもたちには、ドラム缶風呂を炊いてお風呂にしています。まるで毎日キャンプのようです！

全国の保育者仲間から頂いた支援物資は、

求めている地域の人にお配りしたり、中高生がボランティアとして、さらに広範囲に支援している団体の所へ自転車で持って行ってくれたりしています。

この未曾有の震災で、たくさんのことを失った代わりに、たくさんのごことを得てる気がします。

今日は避難所の布団として大活躍してくれる保育園の子どもたちの布団を園庭に思いっきり干して、その下で子どもたちが泥団子を作ったり、はしゃぐ姿がまるで絵本の「せんたくかあちゃん」の見開きページのように笑ってしまいました。



やまなみ近辺よりもっと被害の大きい町は、今も壊滅状態で戻る家の無い方ばかりです。今、自分たちにできることを、できるしこ、「やまなみ魂」「保育者魂」を心に、みんなで生きてゆこうと思います。

たくさんのお物資を送ってくださった北海道保問研のみなさま、仙台保問研のみなさま、栃木保問研のみなさま、そしてそれをすっ飛ばして運んで来てくれた天草宝島保育園のまっつん、本当に本当にありがとうございました。

みなさんのお気持ちで、前へと進むことができます！

明けない夜はない!! ですから

p(^_^)q

